

沖縄語の文語の新しい表記法

沖縄語の、特に文語の書き方と読み方には、現在のところ特別の知識が必要です。日本語は 1945(昭和 20)年以前は著しい言文不一致でしたが、その後概ね言文一致に改革され、現在に至っています。それでも完全な言文一致ではありません。「は、へ、い、う」は現在でも複数通りに発音するよう、国語の授業で教えています。それでいて日本語の読み書きは、教育によって特別の知識とは見なされず、我々にとって常識とされています。

沖縄語においては、表記の改革はなく、特に文語は言文不一致が維持され、文芸品となっています。文語文の読み方に慣れていない人は、日本語式に言文一致で読みます。というより、沖縄語の文語文を正しく読めないのです。言文不一致では読めないのです。例えば、「かぎやで風」を カギヤデフー と読んで少しも怪しみません。このような状況は、県内はもちろん、県外の人に対しても、沖縄語の正しい普及という見地から、好ましいことではありません。

沖縄語の文語文に慣れている人は、カジャディフー と読みます。文字に慣れていない人でも、音曲に詳しい人は正しく発音します。

現在、文語文を正しく読むには、芸能の分野で師弟関係から学んだり、あるいは古典文学や芸能を専門学校で習得したり、あるいは特別の関心を持つなど、何らかの訓練が必要です。そこでは、沖縄語の伝統的な読み書きは、それ自体が専門知識で、一般人からは近づき難いものを感じます。

一方で現在はもはや、沖縄語の普及は特定の人だけではなく、子供や若者を中心とする不特定多数を対象とする時代になりました。そのため文字は、識者だけではなく、誰にも本来の発音で読まれ、正しく書けることが大切です。日本語の文字の読み書きが、専門知識ではなく常識であるように、沖縄語の読み書きも常識と思われるようになってこそ、沖縄語の真の発展といえます。

沖縄語の文語の新しい表記法は、伝統的表記法を否定して新表記法に改めようとするものではありません。伝統的表記法はそれとして尊重されるべきものと考えます。

口語文も、誰でも一様に読み書きできるよう、原則一音一字、一字一音の書法が望ましいことは当然です。